～ 日本海難防止協会シンガポール連絡事務所発SRO news ～

（Ref No：21－020）

１　パラオのウィップス大統領と柄澤大使は、無償資金協力「農畜産業発展支援計画」に関する書簡の交換を行った。2 億円相当のこのプロジェクトで、日本はパラオ農業局（BOA）に対して鶏の食肉処理場、食肉加工場及び動物衛生検査場建設のための設備やトレーラー等を供与することで、パラオ国内の家畜生産、生産物の品質向上及び家畜飼育者の生活を支援し、パラオの食糧安全保障の向上につなげる。施設は、BOA、台湾技術集団その他のパートナーと協力し、2023 年初めに BOA 敷地内に建設される。

本件は、ウィップス大統領と農林水産大臣との間で署名された協力覚書（※SRO News 20-010 参照）に基づいて設立された農業協力枠組みの「タスクフォース」の初の成果であり、農業分野でのこれまでで最大の助成金である。

原文

（3rd August 2021, Island Times）

※参考：在パラオ日本国大使館（リンク参照）

２　パラオのウィップス大統領は、COVID-19 ワクチン接種率の高さを背景に、シンガポール、韓国等とトラベルバブルの議論を進めていると述べた。Ngirai Tmetuchl 観光大臣は、「フライトは実現可能だが、問題は、旅行者は帰国後 14 日間の隔離が必要なことであり、観光客のパラオへの来訪の大きな妨げとなっている。」と述べた。

また、パラオは 12 歳から 17 歳へのワクチン接種を開始した。ウィップス大統領は、ワクチンを若年者に拡大することで、パラオのワクチン接種率は全人口の 90%になるだろうと述べた。

原文

（2nd August 2021, Marianas Business Journal）

３　台湾とパラオのトラベルバブルが 8 月 14 日から再開される。4 月 1 日に開始されたが、台湾での COVID-19 感染急増で 5 月中旬から停止されていた。パラオは台湾からの旅行者に対し、「長年の友好関係」を考慮して 2,000 回分の COVID-19 ワクチンを接種証明書とともに提供する予定。さらに、各訪問者に 50 ドルの旅行補助金を提供する。旅行代理店によると、すでに 4,200 人が事前予約しており、政府がこれまでに許可した週 2 便の中華航空の利用可能な座席数をはるかに超えていることから、8 月 21 日から 9 月中旬にかけて定期チャーター便を運航するよう航空会社と協議しているとのこと。

原文

（12th August 2021, Focus Taiwan）

４　ミクロネシア連邦は、COVID-19 ワクチンの接種を義務付けた。健康状態に問題がある人、妊婦及び 18 歳未満の子どもを除く者が対象となる。パニュエロ大統領は、「一部の人々が接種を躊躇し続けている」と述べ、「クリスマスまでに 70％の接種目標を達成して集団免疫を獲得し、COVID-19 free から COVID-19 protected に移行することを願う」と述べた。
原文
（30th July 2021, Australian Broadcasting Corporation）

【第 51 回太平洋諸島フォーラム（PIF）首脳会議（議長：フィジー・バイニマラマ首相）オンライン開催（8 月 6 日）関連】
５　バイデン米大統領は、同会合にビデオメッセージを送り、米国は世界的な COVAX ワクチン共有プログラムでワクチン 5 億回分を提供し、その一部は太平洋地域に渡されるとし、「政治的しがらみや条件の無いもので、命を救うものだ」と述べ、また、米国は 2030 年までに劇的に排出量を削減することを約束していると述べた上で、米国は太平洋地域に関与し続けるだろうと述べた。
　太平洋の国と地域の指導者たちは、同会合の宣言で、気候変動による海面上昇の問題にあたり、この地域の海上境界線が永続的であると世界的に認識される必要があると合意。海上境界線は陸地の地点から得られるところ、海岸線が減少した場合における海の境界維持を図ろうとしている。ニュージーランドのアーデーン首相は、「この宣言は国連に提出され、国連気候変動枠組条約締約国会議（COP26）の議題に含まれるだろう」と述べ、「太平洋島嶼国の一部は、海面上昇が続くと、その領域を失うことなる。太平洋島嶼国の指導者として、国連海洋法条約の解釈を示す」と加えた。
　今年の初め、フォーラムから撤退する意向を通知したミクロネシアの国々（マーシャル諸島、キリバス、パラオ、ミクロネシア連邦、ナウル）の首脳は、同会合を欠席し、（※ミクロネシア地域を代表して）ナウルのエニメア大統領のみが出席した。同フォーラムの事務局長として、紳士協定を破り、クック諸島のプナ元首相が選ばれたことに対する不和によるものであり、今会合でプナ元首相が発言している間に、エニメア大統領は退席した。議長であるフィジーのバイニマラマ首相は、選考プロセスによって引き起こされた不満についてミクロネシアの指導者に謝罪し、地域の統一に訴えた。しかしながら、パラオのウィップス大統領は、PIF サミット後にあったパラオでの定例会見の場で、ミクロネシアの国々は同フォーラムを去ることは確実だと述べた。PIF の対面会議は 2022 年 1 月にフィジーで予定されているが、（※ミクロネシアを代表して）ナウルは声明で、合意が他のリーダーによって尊重されない限り、ミクロネシアは会議に出席しないと述べた。
　オーストラリアのモリソン首相は、同会合中、食事をしているのをメディアが確認され、太平洋地域のジャーナリストは、重要な会議中に「多くの太平洋の文化で非常に失礼」と見なされることをしたとして批判。
原文
（6th August 2021, Reuters）

原文
（12th August 2021, Radio NZ）
原文
（13th August 2021, Island Times）
※参考：第 51 回 PIF Communique（リンク参照）

６　サモアのファアメ首相は、トゥイラエパ前首相が支持していた中国支援の港湾開発プロジェクトを進めないことを決定した。（※SRO News 21-009 参照）ファアメ首相は、この 1 億ドルのプロジェクトは対外債務の中国が占める割合を 40%から 70%に引き上げるもので、実行可能性が低くサモアに必要なものを超えていると述べた。一方、このプロジェクトの中止が中国との強力な関係を妨げることはないとし、サモアに利益をもたらす将来のプロジェクトのため、中国を含む全てのパートナーへの門戸は開かれたままだと述べた。
原文
（2nd August 2021, Radio NZ）

７　バヌアツはオーストラリアからガーディアン級巡視船 RVS Takuare を受け取った。オーストラリアの太平洋海洋安全保障プログラム（Pacific Maritime Security Program：PMSP）で供与する 12 隻目の船舶となる。オーストラリア防衛産業大臣は、バヌアツとオーストラリアの安全保障の永続的な強さを証明するもので、「ポートビラの岸壁改修と PMSP の特徴である永続的な訓練・メンテナンスに支えられ、高品質の船舶を提供できることを誇りに思う」と述べた。
原文
（30th July 2021, Australian Government Department of Defence）

【グアムでの巡視船就役式における米国沿岸警備隊シュルツ長官のコメント】
８　本日、我々はここグアムのアプラ港を基地として、3 隻の巡視船（fast-response cutter）を就役させた。従来の巡視船 2 隻に代え、能力を大幅に強化して活動範囲を拡大し、パートナーの国々のキャパシティー・ビルディングを継続するとともに、グアム、北マリアナ諸島、米領サモア等のこの地域の米国の権益を保護する。これらの巡視船は、永続的にアプラ港を基地とし、我々はこれまで Coast Guard Sector Guam と呼んでいたものを Coast Guard Forces Micronesia Sector Guam（CGFMSG）と再指定する。米国沿岸警備隊は、1 世紀半以上にわたって太平洋沿岸警備隊であり続けてきたが、CGFMSG は米国の領域だけでなくミクロネシアの国々であるパラオ、ミクロネシア連邦、マーシャル諸島、キリバス及びナウルを支援するための永続的な存在だと認識し、我々はサービスを提供し続けていく。
原文
（6th August 2021, Marshall Islands Journal）

９　ドイツが 21 番目の加盟国としてアジア海賊対策地域協力協定情報共有センター(ReCAAP ISC)に加わった。ReCAAP ISC は声明で、「ドイツの加盟はアジア

の船舶に対する海賊及び武装強盗に関する情報共有ネットワークをさらに拡大・強化する」と述べた。
原文
（2nd August 2021, Ships & Bunker）
※参考：ReCAAP ISC プレスリリース（リンク参照）

Coast Guard helps with our security

While in Guam last Thursday to commission three new Coast Guard cutters, Admiral Karl Schultz, Commandant, US Coast Guard, delivered the following remarks to international media. The Admiral is based in Washington DC.

Back in 2019, I announced plans to add what we called three fast-response cutters, or new patrol craft, to the US Territory of Guam to significantly increase our US presence in the region, the region here where America's day begins.

Today we commissioned those three fast response cutters, the Myrtle Hazard, the Oliver Henry, and the Frederick Hatch, here in their new home port in Apra Harbor, Guam. These cutters are considerably more capable than the legacy 110-foot Island-class patrol boats they replaced, and it was actually two patrol boats here before. We've added three here. A little bit of the differences: These are 44-foot-long around the waterline, eight additional crew, a hundred tons additional tonnage, and seakeeping capability. So tremendously capable ships for the region.

They add increased reach as we continue to do partner capacity-building as we protect our sovereign US interests in the region, including our territories of Guam, the Commonwealth of the Northern Marianas Islands, American Samoa. And when you reflect on the both geographic and economic importance of the region, this is an area that encompasses 1.3 million square miles, or 43 percent of what we call our US Exclusive Economic Zone. And really, more than half of the world's commerce and half of the world's population is over here in the Indo-Pacific region.

These fast response cutters will do all kinds of mis-

Continued page 25

US Coast Guard is committed to Micronesia region

From page 13

sions, myriad missions. They'll detect, deter, and suppress illegal, unreported, unregulated fishing. They'll counter other maritime transnational shipments of illicit narcotics or other products. They'll promote the rules-based maritime governance. They'll safeguard a free and open Indo-Pacific, and really help achieve national security objectives in the Micronesia region.

Further, our highly trained, professional crews of these cutters will call on Pacific Island country ports. They'll embark host nation shipriders, and those engagements further strengthen our relationships and bolster the partnerships we have throughout Oceania.

And these cutters are here to stay. They're permanently based in Apra Harbor. Today we also re-designated what was historically called Coast Guard Sector Guam — we have now re-designated as Coast Guard Forces Micronesia Sector Guam. And now that demonstrates our enduring commitment to really a broader whole-of-government approach with these increasingly capable platforms in an area of the globe that's increasingly important from a geo-strategic standpoint.

Our part in this solution set really focuses on partnerships and collaboration. And when folks I think external to us in the region reflect on the Coast Guard, I think we're a maritime organization with centuries of continuous experience in maritime security, marine safety, and environmental stewardship. And that experience, when it's coupled with our broad authorities, our quite capable platforms, and humans that operate those platforms, and really the international relationships that we are able to tap into and leverage, that allows us to advance maritime security. It best positions us as an organization to promote acceptable maritime behavior amongst regional maritime stakeholders.

I'll note that the United States Coast Guard has been a Pacific Coast Guard for more than a century and a half. Our Coast Guard Forces Micronesia Sector Guam, the new designation for the unit here in Guam, recognizes our Coast Guard lasting service and our enduring presence in supporting not only our US territories, but the Micronesian countries of Palau, the FSM, Federated States of Micronesia, the RMI, Republic of the Marshall Islands, Kiribati, and Nauru.

So our increased footprint in this region really reflects our commitment to the region.